

まごころだより

2021年 9月号

“弁当の日”

8月のお弁当の日は利用の方のお誕生会と一緒にしました。以前にも書いたのですが、人に誕生を祝って貰えるのは幾つになっても嬉しいと言われます。一人暮らしの方はとても嬉しいと言われます。人との関わりが少なくなると会話は勿論のこと、出会い事態が乏しい日常を送っておられる方などは一様に寂しいと訴えられます。そういう意味ではまごころは少しはお役に立てているのではないかと嬉しく思います。

“食事前の体操”

昼食を始める少し前に軽い体操と口腔運動を行っています。遊びのような内容なのでそんなに負担にはなっていないと思います。ですが、皆さんは結構楽しんでおられるように見えます。中にはご自分が指導役になって先導して貰える方もおられます。なんだか楽しそうです。



“法要”

以前にも執り行った法要を8月には“祠堂経”として行いました。先月に続いてですが、住職が正装してお勤めしました。やはり皆さん神妙にされていました。お勤め後には講話もあって、内容も緊張のあるお勤めと、分かりやすい話で少しは理解してもらえたのではないのでしょうか。



“子供の成長”

まごころの職員が出産したことはお知らせしましたと思いますが、あれ

から9か月の月日が過ぎました。今では捕まり立ちが出来る様になり、もうすぐ歩行が出来る様になります。私は子どもの事はすっかり忘れてしま

いましたが、その子の成長を目の当たりにすると、驚くことと子育てしてきた昔のことが思い出されて、何故か顔が緩んでしまいました。若い親達は可愛いだけでは育てられなのでしょうし、これからの成長の過程で沢山の困難に向き合うことになるはずですが、子育てで思い悩むことがあると頼りになるのが家族、友人、専門機関などあります。現代では核家族化がすっかり定着して二親だけで育児を担うのが大半でしょうが、本当に頼りになるのは祖父母だと思うのです。一概にそう言い切ることはできませんが、祖父母はほぼ無条件で孫が可愛いといいます。仕方なく遠く離れていても、電話一つで力になってくれると思うのです。まごころを利用くださっている方は皆、小さな子供が近く来るとぱっと表情が明るくなってとても優しい顔になります。きっとお孫さん達はすっかり成長されて大人になっておられるかと思いますが、ご自分の家族でなくても小さな子どもには人の心を和らげるとても大きな力があると思います。

